

鉄道駅舎の複合化に伴う機能間の相互利用に関する研究

－「自由通路」と駅舎・付随施設との関係性に着目して－

A Study on Interaction between the Functions Associated with Composing of Railway Stations -To Focus on the Relationship with Free Passage and Station Buildings with Incidental Facilities-

○山田香奈恵¹, 山中新太郎²

*Kanae Yamada¹, Shintaro Yamanaka²

From the viewpoint of interaction, clarify the role of free passage in railway stations. This paper classifies the rail stations focusing on placement relation and access between functions. By comparative analysis, this paper found the following. In addition to the role of linking the cities, the free passage has a role as an entrance to the incidental facilities and a place of stay. Especially, when a station combines with public facilities, free passage has an important role.

1. 研究背景と目的

鉄道駅は、日本の主要な交通拠点として全国で建設されてきた。しかし、都市部の人口増加・地方都市における街の衰退・少子高齢化問題といった日本を取り巻く環境の変化により、商業施設や公共施設を伴う複合駅舎が増加している。異なる機能の複合は街の活性化だけでなく、機能間同士の相互利用も期待できる。

本研究では、本来持つ「駅によって分断された街をつなぐ」という役割が、鉄道駅舎の複合化に伴い多岐に渡っている「自由通路」に着目する。相互利用という観点から自由通路の持つ役割を明らかにすることで、今後の複合駅舎のあり方を考察する。

2. 研究対象と方法

『新建築』および『日経アーキテクチャ』の2008年以降に掲載された駅舎・駅周辺施設のうち駅舎と自由通路の関係性が読み取れる37作品を対象とする。特に、他機能が複合されている作品について図面を用いて「駅舎・自由通路・付随機能」の配置関係による類型・機能間のアクセス方法による類型を行い、割合分析や比較分析の結果を用いて考察する。

3. 既往研究と本研究の位置付け

矢田ら^[1]は、中国地方の山陽本線および山陰本線を対象に、鉄道駅舎の平面型による設置機能の傾について明らかにしているが、具体的な配置関係については述べられていない。そこで、本研究では「駅舎・自由通路・付随機能」の関係性について、駅の利用状況や配置計画等の多方面から統計的に分析する。

4. 複合駅舎における自由通路の空間特性

4-1. 分類

自由通路の役割は複合される機能により異なると考えられるため、付随施設を「商業施設」「公共・その他施設」に分けて分析を行う。各々を「経路類型」「配置類型」によって分類する。なお、着色している部分は改札およびエントランスがある階を指すものとする。

「配置類型」(fig.1)は「自由通路に対する駅舎の位置」および「駅舎に対する商業施設の位置」の2つを加味して8タイプに分類する。また「経路類型」(fig.2)は各施設へのアクセス方法により5タイプに分類する。

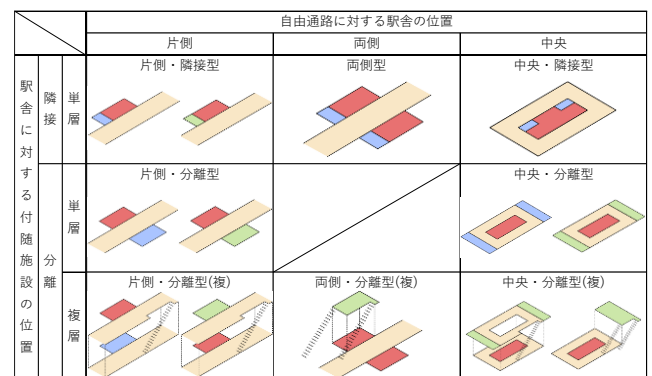


fig.1 配置類型

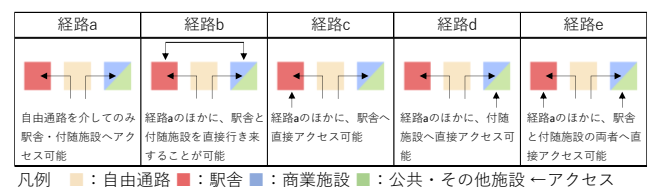


fig.2 経路類型

複数回答を可として、調査対象である複合駅舎の類型は tab.1 のように分類された。

1：日大理工・学部・建築 2：日大理工・教員・建築

tab.1 複合駅舎の調査対象と類型

作品名	駅名	複合機能			配置類型 (商業施設)	配置類型 (公共・その他)	経路類型		
		商業	公共	他			(商業)	(公共・その他)	
東急大岡山駅上東急病院	大岡山	○	○	○	病院	片側・隣接	片側・分離	c	e
日向市駅	日向市	○	○	○	片側・隣接	片側・分離	a	e	-
京阪電車 中之島線	大江橋	○	○	○	片側・隣接	片側・分離	a	-	-
	なにわ橋	○	○	○	ギャラリー	片側・隣接	片側・分離(複)	a	a
若見沢複合駅舎	若見沢	○	○	○	ギャラリー	片側・隣接	片側・分離(複)	a	a
高知駅	高知	○	○	○	片側・隣接	片側・分離	a	-	-
たまプラーザ駅	たまプラーザ	○	○	○	文化ホール	中央・分離	中央・分離(複)	d	a
たまプラーザテラス	たまプラーザ	○	○	○	文化ホール	中央・分離	中央・分離(複)	d	a
日立駅	日立	○	○	○	交流スペース	片側・隣接	片側・分離	a	a
東急大井町線上野毛駅	上野毛	○	○	○	託児所	両側	両側・分離(複)	c	e
大阪ステーションシティ	大阪	○	○	○	オフィス ホテル	中央・隣接	中央・分離(複)	b	d
					中央・分離	中央・分離	a	-	-
					片側・隣接	片側・分離(複)	a	-	-
JR博多シティ	博多	○	○	○	両側	片側・隣接	-	b	-
新山口駅 南北自由通路	新山口	○	○	○	両側	片側・隣接	-	a	-
一ノ宮市尾張一ノ宮駅前ビル	尾張一ノ宮	○	○	○	図書館 託児所	片側・隣接	片側・分離(複)	a	a
渋谷ヒカリエ	渋谷	○	○	○	オフィス	中央・分離	中央・分離(複)	d	d
東急東横線渋谷駅	渋谷	○	○	○	ホテル	片側・隣接	片側・分離	e	e
東京駅丸の内駅舎 (保存・復元)	東京	○	○	○	ギャラリー	片側・隣接	片側・分離	e	e
東京駅八重洲口グランルーフ	東京	○	○	○	ホテル	片側・隣接	片側・分離	e	e
旭川駅	旭川	○	○	○	観光案内 ギャラリー	中央・隣接	中央・分離	a	d
女川駅	女川	○	○	○	浴場	片側・隣接	片側・分離	-	d

4-2. 商業施設を複合する場合の類型と傾向

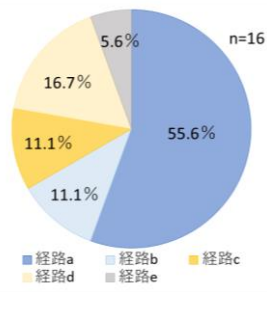
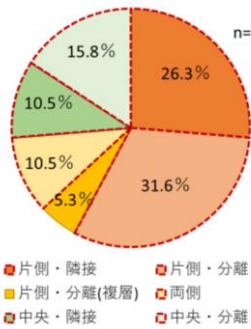


fig.3 配置類型

fig.4 経路類型

fig.3 は、配置類型における各要素の割合を示している。単層型が全体の 94.7% を占めている一方で、複層型は全体の 5.3% にとどまっていることより、「駅舎と商業施設のエンタランスが同一階にある単層型」が特徴であると言える。

また、fig.4 は経路類型における各要素の割合を示している。全体の 55.6% が自由通路を介してのみ駅舎・商業施設にアクセスする経路 a となっており、自由通路の役割が大きい。

これらは、商業施設が収益性を求めて「ついで利用」を促しているためであると考えられる。

4-3. 公共その他施設を複合する場合の類型と傾向

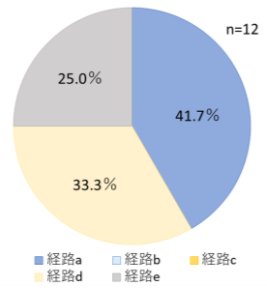
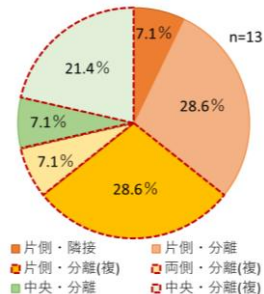


fig.5 配置類型

fig.6 経路類型

fig.5 より、複層型が全体の 57.1% を占めており、商業施設を複合する場合に比べて、複合型の比率が高いことが特徴である。これは、商業施設に比べ公共施設やオフィス、ホテルといった機能は目的物であるためだと考えられる。

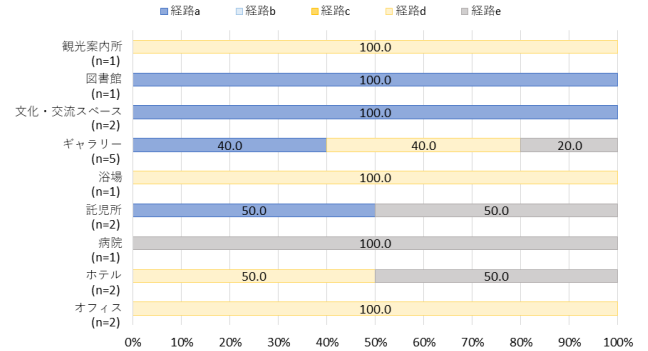


fig.7 付随施設の機能と経路類型によるクロス集計

また、fig.5 において自由通路と駅舎が隣接している隣接型が全体の 7.1% しか占めていないこと、また fig.6 において経路 b が存在しないことも特徴である。さらに、付随施設の機能と経路類型のクロス集計 (fig.7) より、特に地域住民が主に利用する図書館、交流スペースといった機能を複合している場合は積極的に自由通路および、そこから続く空間を通る計画がなされていることが分かった。

6. 結論および今後の展望

商業施設を複合する場合、自由通路は「街をつなぐ役割」だけでなく「商業施設への入口」としての役割を持つが、経路 b のように自由通路を介さずに駅、商業施設にアクセスできる場合もある。一方で、公共・その他施設を複合する場合、自由通路は「人々が滞留・交流する場」としての役割を持ち、その役割は付随施設の機能により変化する。特に公共施設を複合する場合、積極的に自由通路を通るような計画がなされているため、自由通路は相互利用の観点より重要な役割を持っていると考えられる。複合駅舎は、利用状況の他に施設が持つ機能に合わせた計画をすることが望ましいと言える。

今後は、研究対象を建築雑誌に限定せず、またヒアリング調査等を実施することで、より自由通路の実態を明らかにしていけるのではないと思われる。

【参考文献】

- [1] 矢田智美「まちづくりの視点からみた鉄道駅舎の機能設定に関する基礎的研究」日本建築学会九州支部研究報告書 pp. 85-88, 2002
- [2] 鹿島出版会編「駅再生-スペースデザインの可能性-」鹿島出版会, 2002. 11